

《報道関係者各位》

2018年10月3日

長寿命社会を迎えるこれからの住まいを見据えたデザインが評価され、  
**人生 100 歳時代の未来住宅「五世代の家」が**  
**“2018 年度グッドデザイン賞”を受賞！**

株式会社LIXIL住宅研究所

株式会社LIXIL住宅研究所(本社:東京都江東区/代表取締役社長:今 城幸)は、公益財団法人日本デザイン振興会が主催するGOOD DESIGN AWARD2018において、人生100歳時代の未来住宅「五世代の家」(以下、五世代の家)が「2018年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

日本は、地球温暖化、自然災害、少子高齢化、空き家増加などの多くの社会的問題を抱えています。一方で、人生100歳時代に向かう中、人の暮らしや家族のあり方が多様化し、住宅に求められる機能も住まう人の年代ごとに変化しています。これらの問題・課題を解決するため、「五世代の家」を研究開発し、各世代に合った別々のユニットに住みつつ、一つ屋根の下に小さなコミュニティを形成し、お互いを見守り助け合って、みんなが元気に暮らせる住まい方の提案をしています。

■作品名称■ 人生100歳時代の未来住宅「五世代の家」

■作品概要■ 2025年の生活を見据え、人生100歳時代に五世代4世帯の家族がともに元気に暮らせる新しい住まい

■デザイナー■ 中山 眞琴(nAナカヤマアーキテクト)  
LIXIL住宅研究所 キッズデザイン研究所

■審査員コメント■

長寿命社会の住宅をシェアハウスのような考えで解いている。4世帯の住空間はそれぞれの特徴に対応した作り込みを行う一方で、シェアスペースとしてのキッチンや水廻りはゆとりをもたせることはもちろん、スペックの高い設備を設える契機となるのであろう。それが核家族向けの住設とどのように異なるのか、今後の展開が興味深い。シェアハウスのようにつくっているのであれば、血縁を超えた住み方への展開も期待される。

 GOOD DESIGN AWARD  
2018年度受賞

人生100歳時代の未来住宅  
「五世代の家」

当社では、今回の受賞を契機に「五世代の家」の普及に向けた取り組みを進めていくとともに、住まいづくりにおけるデザインの活用を積極的に推進し、ブランドイメージの向上に務めていきます。

グッドデザイン賞とは

1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「Gマーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。

●グッドデザイン賞WEBサイト:<http://www.g-mark.org/>

【報道関係者のお問合せ先】

㈱LIXIL住宅研究所 広報・宣伝部 担当:千明  
電話:03-5626-8251 メール:[kazuhiko.chigira@lixil.com](mailto:kazuhiko.chigira@lixil.com)  
LIXIL住宅研究所ホームページ URL:<https://www.lixil-jk.co.jp/>



本ニュースリリースは、本日、国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会にて、広報発表しています。

# 【受賞作品】 人生 100 歳時代の未来住宅「五世代の家」

## 開発の背景

日本は、地球温暖化、自然災害、少子高齢化、空き家増加、エネルギー自由化など、多くの住まいにおける社会的な課題を抱えています。一方、人生 100 歳時代に向かう中で、人の暮らしや家族のあり方は多様化し、長いライフステージの中では、住宅に求められる機能も住まう人の年代ごとに変化します。今回受賞した「五世代の家」では、五世代が各世代に合った別々のユニットに住みつつも、一つ屋根の下に小さなコミュニティを形成して、お互いを見守り助け合って、みんなが元気に暮らせる提案をしています。

## 特長

「五世代の家」では、五世代が元気に暮らしていくために、「4 世帯がつながる家」「IoTで進化する家」「からだを鍛える家」「未来に受け継ぐ家」という 4 つの提案を盛り込みました。

### 1. 4 世帯がつながる家

4 世帯が暮らせる「つながる家」を提案。1 つ屋根の下で、小さなコミュニティを形成することで、お互いに見守り、お互いに助け合い、子育てや介護の手助けができ、人とのつながりを大切にする暮らしができます。「五世代の家」の間取りは、共有スペースである「コネクティング・フロア」と、各世帯の独立したスペースとなる Unit1 から Unit4 に分かれ、各世帯がつながりつつも独立した空間を提案。



### 2. IoTで進化する家

情報通信技術の発展したIoT技術を活用し、安心・便利な暮らしを提案しています。スマートフォン、タブレットを使って、家電製品や玄関ドアの施錠を遠隔操作でき、また、快適な生活を送るための様々な提案を盛り込んでいます。



### 3. からだを鍛える家

東京大学大学院・深代千之教授の監修によるスポーツ教室「忍者ナイン」から抜粋した、様々な運動プログラムを家で行える提案です。このプログラムで様々な運動の基礎となる動作を学ぶことで、子どもの「**運脳神経※**」を高めます。また、高齢者に対しても、日常生活の中で健康維持に役立つ工夫や設備をプランニングしています。 ※運脳神経とは、深代千之教授が提唱する、運動も勉強もできる脳を育てる考え方です。

#### 遊び感覚で子どもたちのからだを鍛える

「足が速くなる」「まっすぐ速く投げる」「上手に打つ」などの運動プログラムが、家族と一緒に日常生活の中で楽しみながら行えます。



#### 無理のない日常の運動は、高齢者の健康につながる

年齢を重ね足腰が弱りがちな高齢者は、特に「立ち上がる」動作がとても重要です。高齢者の居室は、あえて階段を設けて生活の中で昇り降りする機会をつくることで足腰を鍛えます。また、階段下には股関節の運動が出来る手すりを設置。雲梯ではぶらさがり運動で背骨や筋肉を伸ばします。



### 4. 未来に受け継ぐ家

多世帯が末永く住み継いでいくことができるように、「耐震＋制震システム」「災害時への対応」など、様々な災害から命や財産を守るための工夫を取り入れた提案をします。

万一ライフラインがストップしても自立した太陽光発電と蓄電池、LPガスで「電気」「ガス」を家に供給します。



#### デザイナーコメント 建築家 中山 眞琴氏



人生 100 歳時代、私たちの生き方や暮らし方が変わっています。世代や世帯を超え、共に暮らすことで支えあうことは重要であり、ライフステージの変化によって住まい方を変えられる住宅が必要であると考えました。「五世代の家」では、窮屈になりがちな多世帯同居の暮らしを、各世帯の生活スペースに「レベル差」をつけることで緩やかにつながりつつも分節し「公と私」に分けることで主体的に利用できる空間構成にしています。共有スペースは吹き抜けにすることで開放的な居場所となり、自然と皆が集う空間になっています。日々の生活の中で使うレベル差を創り出す階段は、足腰の健康を保つことの一役になっています。